



2022年3月15日

各位

会社名 株式会社 ACCESS  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 大石 清恭  
(コード番号 4813 東証第一部)  
問合せ先 執行役員 コーポレート本部長 森田 善之  
(TEL. 03 - 6853 - 9088)

## 特別損失及び繰延税金資産の計上、並びに2022年1月期

### 通期（連結・個別）業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年1月期第4四半期連結会計期間において、下記の通り特別損失及び繰延税金資産を計上し、それに伴い2021年11月29日に公表しました2022年1月期（2021年2月1日～2022年1月31日）の連結業績及び個別業績それぞれの予想値と実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

#### 1. 特別損失の計上

##### 【連結決算における減損損失の計上】

当社は、2019年4月に欧州子会社のACCESS Europe GmbH（以下「ACCESS Europe」）を通じて、TV及び車載向け動画配信プラットフォーム開発ベンダーであるNetRange MMH GmbH（以下「NetRange」）の全持分を取得し、当社の連結子会社といたしました。取得時点においては、当社グループとNetRangeそれぞれが有する技術や事業ノウハウを統合することで事業展開を加速し、特に車載インフォテインメント（IVI: In-Vehicle Infotainment）向け分野においてストック収益基盤を構築することを意図しておりましたが、市場立ち上がりの遅れに伴い、NetRangeの業績は当初想定を下回って推移しております。かかる状況を踏まえ、主に車載インフォテインメント向け分野における事業計画を見直し、同社の創出する将来キャッシュ・フローを慎重に検討いたしました結果、持分取得時に想定していた超過収益力が見込めなくなったと判断したことから、2022年1月期の連結決算において同社に係るのれんの減損損失210百万円を特別損失として計上することとなりました。

##### 【個別決算における関係会社出資金評価損の計上】

当社が持分を100%保有するACCESS Europeは当社グループの欧州地域における製品開発・販売拠点として2001年に設立されて以来、組み込みブラウザ「NetFront® Browser」シリーズをはじめとした製品群を現地のTVやセットトップボックスメーカー、自動車メーカーや車載機器ベンダーに提供してまいりました。近年においては車載インフォテインメント向けコンテンツ配信・サービスプラットフォームへの先行投資を行い同分野における事業基盤の確立に注力してきましたが、市場の立ち上がりの遅れにより継続的に営業赤字を計上する状況にあり、また、上述の通り当初想定していた超過収益力が見込めなくなったことに伴いACCESS Europeの子会社であるNetRangeに係るのれんの減損損失を計上することとなりました。

これらを踏まえ、ACCESS Europeに対する当社保有出資金について、当社の2022年1月期の個別決算において関係会社出資金評価損1,654百万円を特別損失として計上することとなりました。

なお、当社の個別財務諸表に計上される当該損失は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績に与える影響はございません。

## 2. 繰延税金資産の計上

当社は、2022年1月期及び将来の業績動向・課税所得を勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産を計上することといたしました。これにより、2022年1月期第4四半期連結会計期間において、法人税等調整額（△は利益）を△141百万円計上することとなりました。

## 3. 通期連結業績予想値と実績値との差異

(2021年2月1日～2022年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	9,000	△3,400	△2,900	△3,050	△77.98
今回実績 (B)	9,853	△3,219	△2,646	△3,049	△77.96
増減額 (B-A)	853	180	253	0	—
増減率 (%)	9.5%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年1月期)	7,516	△2,641	△2,337	△2,537	△65.16

2022年1月31日付「電子出版分野におけるライセンス契約の締結及び減価償却費（売上原価）の計上に関するお知らせ」のとおり、電子出版ソリューション「PUBLUS®」の一部製品に関するライセンス契約に係る売上高を計上し、併せて減価償却費（売上原価）を計上したことにより、業績予想数値に対し売上高、営業利益、経常利益が増加したものでありますが、前述の「1. 特別損失の計上【連結決算における減損損失の計上】」にて記載のとおり、NetRangeに係るのれんの減損損失を特別損失として計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は概ね業績予想数値と同様の水準となったものです。

## 4. 個別業績予想値と実績値との差異

(2021年2月1日～2022年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	5,350	200	200	5.11
今回実績 (B)	5,920	360	△1,292	△33.04
増減額 (B-A)	570	160	△1,492	—
増減率 (%)	10.7%	80.4%	—	—

売上高及び経常利益において業績予想数値との差異が生じた原因は、連結業績における差異の原因と同様であります。当期純利益につきましては、前述の「1. 特別損失の計上【個別決算における関係会社出資金評価損の計上】」にて記載のとおり、ACCESS Europeへの出資金に係る関係会社出資金評価損を計上したことにより、業績予想数値を下回ったものです。

以上